

自分のペースで進化を続ける

音楽家

山岸 恵菜氏（高校68期）

東京都小金井市出身
2016年 立川高校卒業
2020年 東京藝術大学音楽学部作曲科卒業
現在作編曲家・伴奏ピアニスト・音楽教室講師として活動中
ズーラシアンプラス契約作編曲家



■立川高校時代

高校時代は中学生の頃から憧れていた吹奏楽部に所属しました。部活動だけでなくクラスで取り組む行事もとても楽しかったので、合唱祭実行委員や演劇コンクールのキャストなど、やってみたいことにはとにかく挑戦していた3年間だったと思います。高校時代の友人とは今も繋がりがあり、一生ものの友人に出会えたことも、立高に通った3年間で得た大きな財産だと思っています。

■卒業後～これまで

吹奏楽部の活動を通して作曲家という夢をもち始め、作曲科に入学したことで大きく前進したかと思いきや、大学生活は今までの人生で一番もがいた4年間でした。周りには私より遥かに多くの時間音楽と向き合ってきた先輩や同期がいて、良い刺激をもらう反面、自分の力不足を痛感し続けて、とにかく必死だったのを覚えています。なんとか卒業作品まで書き上げましたが、その時点では自分が作曲を仕事にするという未来が見えず、ひとまず自分が幼いころから通っていた音楽教室の講師とアルバイトを掛け持ちしながら、社会人生活をスタートすることとなります。

指導の仕事にも慣れ、気持ちの余裕が少しでてきた時に自分の中に湧いてきたのが「やはり創作活動がしたい」という気持ちでした。ちょうどその時期にズーラシアンプラスという楽団が主催している作曲コンテストを見つけ、まずは一つ挑戦してみよう、と応募したところ大変有難いことに契約作編曲家としてお仕事がいただけるようになり、そこから少しずつ作編曲の仕事の機会が増えてきています。自分が書いた作品が素晴らしい奏者の方々の演奏で形になる瞬間の喜びは、何にも代え難いです。また、子どもたちに音楽の楽しさを伝える指導の仕事も、誇りをもってやっています。

これからも作品や演奏、指導を通して音楽の素晴らしさを伝えられるよう、日々精進したいと思っています。



子どもたちに向けたレッスンの様子



作編曲を担当しているズーラシアンプラスのコンサートの様子

■立高生にメッセージ

立高での3年間は今思い出してもとても充実していたと思いますが、それに負けないくらい卒業後も人生は変化の連続で、面白いことがたくさんあります。今、将来やりたいことがある方もそうでない方も、変化を恐れず目の前のことに全力で取り組んでいればそれがきっと何かの道を切り開いてくれるのではないかと思います。卒業生の一人として、在校生のみなさんの明るい未来を祈っています。